

(参考)各受入れ団体研修報告書

(実地研修期間順)

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター
研 修 実 施 期 間	平成 23 年 9 月 5 日 (月) ~平成 23 年 9 月 16 日 (金)
研 修 対 象 者 数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none">・施設内外・関連事業所見学・資料配布、ビデオによる説明・ひきこもり状態の青少年達と農作業・スポーツ等を主にした共同生活体験・アウトリーチ同行・ケース会議参加

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス
研 修 実施期間	①平成 23 年 9 月 6 日（火）～平成 23 年 9 月 17 日（土） ②平成 23 年 11 月 8 日（火）～平成 23 年 11 月 19 日（土）
研 修 対象者数	4 名
研修概要	<p>保護者面談（模擬）から初回訪問に向けた枠組設定、支援計画の策定、本人同意を取るための事前の働きかけ、家庭での面談、アセスメント、支援の段階的移行、ネットワークの活用方法等、アウトリーチ全般の研修を実施した。特に各研修生及び所属団体における「実践」に主眼を置き、個別のカリキュラムに組み替えるとともに、研修生のスキル習得状況等から講義形式の研修時間は最小限に留め、支援現場における実地訓練を拡充することでより実践的なプログラム内容となるよう配慮した。また、研修生が対応したケースについて、ケースを担当するスタッフからスーパーバイズを行うことで、今回の研修で得られた経験を臨床の知として生かせるようにした。アウトリーチに関しては、導入レベルから標準レベルまで研修生の特性に応じて、各研修生 7～10 件(計 33 件)の随行と振り返りを実施することで、現場に求められる実践的能力の育成を図った。</p> <p>さらに、専門スタッフのリアルタイムのフォローの下で、コネクションズ・スペースにおける適応訓練やキャリア開発プログラム（就労体験等）への随行・作業等に臨むことで、事前研修の実践応用に取り組んだ。</p>

受 入 れ 団 体 名	山武郡市広域行政組合教育委員会 山武郡市教育相談センター
研 修 実 施 期 間	平成 23 年 9 月 13 日（金）～平成 23 年 9 月 24 日（金）
研 修 対 象 者 数	1 名
研 修 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山武郡市教育相談センターの概要と利用状況等について ・ 訪問カウンセラーについて（心構えと活動状況について） ・ 訪問カウンセリング（中学 2 年生男子生徒） ・ 訪問カウンセリング計画について ・ 適応指導教室における通級児童生徒への教育相談（4 教室） ・ 適応指導教室における通級児童生徒への学習支援（4 教室） ・ 適応指導教室における通級児童生徒へのコミュニケーション活動支援（4 教室） ・ 適応指導教室における通級児童生徒の事例検討の在り方について

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
研 修 実施期間	①平成 23 年 9 月 26 日（月）～平成 23 年 9 月 30 日（金）と 平成 24 年 2 月 13 日（月）～平成 24 年 2 月 17 日（金） ②平成 23 年 10 月 17 日（月）～平成 23 年 10 月 28 日（金）
研 修 対象者数	4 名
研修概要	<p>2週間にわたる研修の午前を「座学」、午後を「実践」で構成し、当法人で行われている訪問支援がどのような歴史的経緯で実施されるようになったのか、また訪問支援からどのような支援活動につなげているのか、当法人を体感していただくことを重視し、様々な実践の現場に入ってもらいました。</p> <p>1日の振り返りとして、研修生には振り返りシートを配布し、記入をお願いしました。振り返りシートの目的は、研修をよりよい内容にしていくために、研修生を当法人の仲間として迎え、互いに主体的に研修に関わっていけるようにしました。</p> <p>日々の研修を通じて出てくる要望にも対応しながら、研修に取り入れ、提供しました。</p>

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人青少年自立援助センター
研 修 実 施 期 間	平成 23 年 10 月 17 日（月）～平成 23 年 10 月 28 日（金）
研 修 対 象 者 数	1 名
研 修 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス：施設説明・支援内容・活動内容・研修にあたっての留意点の説明 ・ 施設実習：利用者とともに日常の活動に参加。文化祭の準備と文化祭当日に沖縄の踊りであるエイサーを披露していただき、場を盛り上げてくださった。 ・ 地域若者サポートステーション研修：あだち若者サポートステーションで一日業務内容の体験をした。 ・ フリースペースわかば研修：フリースペースわかばで一日業務内容を体験した。 ・ ワークショップ：訪問支援に関する方法論・基礎知識の講義・実際のインタビュー・訪問場面をロールプレイにて体験した。 ・ 訪問同行：実際に支援中のケースに同行して訪問を体験した。 ・ 総 括：最終日に振り返りを行った。

受 入 れ 団 体 名	浜松市精神保健福祉センター (実施団体 NPO 法人 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会)
研 修 実施期間	平成 23 年 10 月 17 日 (月) ~平成 23 年 10 月 28 日 (金)
研 修 対象者数	1 名
研 修 概 要	<p>・浜松市ひきこもり地域支援センターを拠点とし、市内でひきこもりや不登校等を支援している様々な機関を見学、体験し、アウトリーチを含めた浜松市全体の取組について学ぶ。</p> <p>①浜松市精神保健福祉センターにて、ミーティング、他課や多機関との情報交換を行う。</p> <p>②ひきこもり相談支援事業の訪問支援に同行する。</p> <p>③精神科診療所が行う訪問支援に同行する。</p> <p>④適応指導教室にて不登校児童生徒との交流、指導員との情報交換をする。</p> <p>⑤フリースクールの活動に参加する。</p> <p>⑥自殺対策連携プロジェクトに参加する。</p> <p>⑦ひきこもり家族教室へ参加する。</p> <p>⑧ひきこもり当事者グループへ参加する。</p> <p>⑨ひきこもり相談支援事業の支援員連絡会に参加する。</p> <p>⑩ひきこもり地域支援センターの企画検討委員会の会議に参加する。</p>

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・サポーターズ
研 修 実施期間	平成 23 年 10 月 31 日（月）～平成 23 年 11 月 25 日（金）
研 修 対象者数	1 名
研修概要	<p>10 月 31 日：オリエンテーション／若者への介入 ハロウィン参加</p> <p>11 月 1 日～11 月 4 日：若者への介入 若者支援 集団・グループ介入と振り返り</p> <p>11 月 7 日～11 日 午前中：集団・グループ介入／午後 面談陪席及び PC 講座の支援</p> <p>11 月 14 日～18 日 午前中：集団・グループ介入／午後 面談陪席及びインタビュー</p> <p>11 月 21 日～25 日 午前中：集団・グループ介入／午後 面談実施</p> <p>※宿泊型支援実践</p> <p>⇒11 月 22 日・23 日・24 日 2 泊 3 日で実施 場所：南知多キャリア・ビレッジ</p> <p>※研修中、ロールプレイ実施</p>

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 教育研究所
研 修 実施期間	平成 23 年 11 月 7 日（月）～平成 23 年 11 月 18 日（金）
研 修 対象者数	2 名
研修概要	<p>研修前半において、不登校・ひきこもりの心理的背景、ひきこもり状態になる仕組、対応など理論的な講義を行った。また行政との関係も含め総合的な若者のひきこもり支援の現状を講義した。前半は講師として牟田武生が行い、大場隆広が補佐をおこなった。</p> <p>後半は、アウトリーチの実施を含め、具体的なアウトリーチに関する研修を行った。</p> <p>インテークによる情報整理の方法、ひきこもり段階に応じたアウトリーチの手法を講義し、実際の被支援者に対してのアウトリーチも行った。後半の講師は久玉和昭、牟田光生が担当した。</p> <p>また、運動、作業を通じて、実際のひきこもり経験者との意見交換も行った。</p>

受 入 れ 団 体 名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター北斗寮
研 修 実施期間	平成 23 年 11 月 7 日（月）～平成 23 年 11 月 18 日（金）
研 修 対象者数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ・北斗寮（ひきこもり等の若者の生活支援・自立支援）、地域若者サポートステーション（いわゆるニート状態などで困難を抱えた若者の自立支援）において利用者の対応、プログラム補助、ワークショップ参加 ・コミュニケーションセミナー見学／参加 ・ひきこもり家族教室 訪問支援セミナー参加 ・アウトリーチ（訪問支援）に関する講義研修、ロールプレイ ・アウトリーチ（訪問支援）に関するケース検討 ・訪問（事前/事後）ケース検討 ・当法人職員との情報交換